

# 令和6年度草津市農業振興計画審議会 議事概要

## ■日時

令和6年8月26日（月）10時00分～12時00分

## ■場所

草津市役所4階行政委員会室

## ■出席委員（8名）

松原会長、吉川副会長、廣田委員、田中委員、堀委員、辻委員、速水委員、箕浦委員

## ■欠席委員（7名）

金子委員、飯田委員、岡崎委員、木村委員、中嶋委員、村山委員、土井委員

## ■事務局

環境経済部 太田専門理事

農林水産課 山田課長、中嶋係長、杉浦係長、田中副係長

## ■傍聴者

なし

## 1. 開会

---

### ◇事務局

委員の半数以上の出席があり、草津市附属機関運営規則第6条第1項により、審議会の成立要件を満たしていることを報告。

### ◇太田専門理事より挨拶

## 2. 新委員等の紹介

---

### ◇事務局から新委員2名および事務局職員の紹介

### ◇草津市附属機関運営規則第5条第2項の規定により、議事進行を会長に依頼。

### **3. 第2次草津市農業振興計画概要説明**

---

◇令和4年3月策定の第2次草津市農業振興計画の概要について、配布資料の第2次草津市農業振興計画概要版に基づき事務局から説明。

### **4. 第2次草津市農業振興計画の成果目標と進捗管理、令和6年度取組予定について**

◇資料1、2-1～3に基づき事務局から説明。

### **5. 質疑応答**

---

#### ●委員

基本方針2の高収益作物の耕作面積が目標よりも下がりつつある。原因として思うのは、高収益作物で本当に収益が上がっているのかどうか。上がっているのであれば作付面積がもっと増えると思う。あるいは、季節によって他の作物と収穫や作付時期が被るので、面積が伸びないのか。なぜ面積が伸びないのかということは把握しているか。

#### ◇事務局

米の生産目標がある中で、転作として高収益作物等の取組をいただいているが、令和4年から5年にかけては、麦大豆の作付面積が大きく広がっております。そのため、米の需給調整の観点から行くと、それほど多くの面積を高収益作物に割く必要が無かったということも要因としてあると考えております。

ただ、高収益作物の田における生産体系であるとか、高収益作物の販路といったところは関係機関と連携して取組が進むようにしていくことは必要と感じており、関係機関や担い手の方々と協議しながら取組を進めていきたいと考えております。

#### ●委員

確かに麦大豆の面積を増やすと、高収益作物の面積は下がる。担い手として高収益作物の面積を増やすのは非常に難しいところがある。増やしたら増やしたで機械導入も必要になってくる。

高収益作物の面積を大きくすると時期が被ったりして麦の収穫に支障が出てくる。どちらかにしわ寄せが行ってしまう。

高収益作物だけをやっているのであれば面積を増やせるが、農家としてはそれだけではなかなか所得が得られてこない。

だから高収益作物は3～6反程度にしておくというのが草津市の担い手の一般的な形かと思う。なかなか高収益作物の面積を増やすのは難しいかなと思う。

●委員

高収益作物と言われているが、水田フル活用の中で麦大豆のほかに野菜も作っていきましようという国の方針の中でやっているものであり、作っていただいた野菜が高く売れているかというところというわけでもない。

まさに今、委員が言われたように、麦大豆とのバランスをしっかりと考えていかないといけないということと、水田に野菜といった畑作のものを作っていくとなると、機械類が畑作用でまだ水田の土に対応できない部分がある。また、機械に費用もかかるということで大変苦慮していただいている。そうやって国の施策に協力いただいているが、本当にそれが高収益になっているのか、あるいは手間だけが増えてしまっているのか。

高収益作物の面積が減っている原因はそういうことかもしれないし、あるいは今、麦が不足しているので麦の方に行っているということもあるかもしれないし、色々な要素があるので、一概に高収益作物の作付面積を増やしていくことが本当に可能なのかということはあると思う。

また、農地自体が減少しているということもあるし、今年度改正・施行された食料・農業・農村基本法にうたわれている合理的な価格形成というものがきちんとできて、かかった費用が価格転嫁されるようにならないとなかなか難しいのではないかと。ただ、あまりに価格が上がりすぎると今度は消費者が困ってしまうので、合理的な価格形成の仕組みをきちんと整えないと、生産者も消費者も困ってしまうと思う。

●委員

認定農業者の方が2名増えているが、米農家か園芸農家かどちらですか。

◇事務局

令和5年度中の増加の2名については、いずれも野菜農家の方でございます。

●委員

市民の農業への理解というのはどのような理解をしてもらうのがいいのか。

最近、耕作している農地の近くまで宅地化が進んでいて、朝早くから草刈したらうるさいとか、トラクターで通った時に土が落ちたら拾えとか、そういう苦情がかなりある。農業に対する市民の理解度が最近希薄になってきている気がする。

我々が作った米をその方々も食べておられると思う。最近では米が無いという状況にもなっている。

我々も時間帯は考えて作業しているが、それでも理解されない方が結構最近増えて来ており、農業に対する市民の方の理解度をどうしたら深めることができるかと

考えている。

◇事務局

市民の方からそのような意見が出たということを知り、重要な問題だと考えています。

市としましては基本方針3の中で情報発信の充実を重点事業として整理しており、農産物の直売やおおばなフェスタなどの農に関するイベントの市民の方への周知を推進していくということと、イベントの中で農への理解を深めていただけるようなコーナーを設置するといったことも重要ではないかと考えているところです。

また、家庭菜園やベランダ菜園の推進を通じて野菜作りに興味関心を持つところから始める内容のものや、未就学児や小学生対象のものではありますが、はたけのこ体験事業やたんぼのこ体験事業といった形で、農業に関わる機会の創出を行っているところでございます。

幅広い層が農への関心が深められる内容のものをイベント等を通じて実施できればと考えているところでございます。

●委員

宅地を購入される方に対して、開発業者からあらかじめ近隣に農地があるので農作業による騒音などがあることを言ってもらわないといけない。

◇事務局

新しく住まれる方があらかじめそういう話を聞いていれば承知のうえで購入したことになるので、重要なことだと思うが、どういった手法が可能かすぐには分からないところもあるので、今後調査研究していきたい。

●委員

別の側面から見ると、隣に農地があつて防災面でのオープンスペースや緑があることは住宅地の環境として悪くなく、むしろ良い面も多くある。

そういう良さがあつて、そういうところで生活したいという方もいらっしゃると思う。ただ、現実には色々なことが起こるので、そのことを事前に知っておいてもらうことは大事なことだと思う。

●委員

取組内容の中にイベントの開催などがたくさん書いてあるが、いつどこでやっているのかということを知らない。市の広報などに書いてあるのかもしれないが、見ない方もおられるし、インスタグラムは趣味の範囲で使っておられる方が多

く、インスタグラムでの情報発信では農業に興味が無い人たちを引き寄せることは難しいのではないかと。

そういう人たちを引き込んでいくような手法があればいいと思う。せつかく多くのイベントをしても伝わっていないのではないかと。

#### ◇事務局

イベントをする側としても、どこをターゲットにどういう手法で周知をするのが良いのかという部分は常に悩ましいところです。

多くの方に知っていただきたい部分もあるが、会場のキャパシティを超えて混乱が起きてはいけないということで、現在のところは、市のホームページや広報くさつ等で周知をしています。

ただ、そうすると見る方しか見ないという状況が起こるといことも御指摘のとおりと思っており、例えば、地域のまちづくりセンターに案内を置かせていただいたり、できるだけ早めに周知を早めに行い、できるだけ多くの方に見ていただける機会を増やしていくということも考えていきたいと思っています。

#### ●委員

教育関係や啓発関係でいうと、湖南農高の高校生はかなり柔軟な発想を持っており、立命館大学とも色々連携しているが、本当に色々なことを思い付くので、何かあれば言っていただければと思う。

そういった活動は生徒の教育にも物凄く効果があるし、地域貢献にもなるので、ぜひとも検討いただければと思う。

#### ●委員

立命館大学の大学生も色々な活動を地元ですており、農業サークルの活動でロクハ公園の一角を借りて作物の作付を始めたり、草津ファーマーズマーケットは当初、立命館大学の大学生が実行委員会に入ってやっていたが、その卒業生がまた戻ってきて運営に携わっているという話を聞いており、地元との縁がその後の進路にも繋がっているようなケースもある。

大学生は自由に出て行ってどんどん色々なことをやっていくので、連携していただけると大変ありがたい。

#### ◇事務局

市では現在、農商連携調整員を設置して色々な取組をしており、未就学児に対してははたけのこ体験事業、小学生に対してはたんぼのこ体験事業、中学生では松原中学校において、グラウンドの一角に畑を開墾し、そこで春大根を育てて市役所で

即売会をするという取組を昨年度行いました。

高校では湖南農高と連携し、大学では立命館大学と連携し、未就学児から大学生まで農と触れ合う機会と食農教育をできる体制を作っているが、こういった取組が市民の方に伝わるように情報発信の充実というところも実施していきたいと考えています。

#### ●委員

連携というと共同プロジェクトのイメージがあるが、作ったものを売る場の提供だけでは余りにももったいない。

例えば、草津市の若手の農業担い手候補のような方々を集めて、月1回アイデア出し会議をして、広報や周知の方法といった若い人が得意そうな分野で意見を出し合うなど、新しい風を入れるような取組をされたらどうかと思う。

#### ●委員

基本方針3の地産地消の推進について、市民の農業に対する理解ということも関係するが、例えば草津市でどういった作物が生産されているのかということだけを市民の方が知っておられるか。

草津で作られているものは草津市産を買おうという意識の醸成を継続的に行っていけば、小売店もお客さんの需要があるということで草津市産の農産物をもっと店頭に並べるようになるのではないか。

今はどちらかというとな販売側に草津市産を置いてもらおうとてこ入れしているが、消費者の意識が変われば販売側も動くと思う。

#### ◇事務局

草津市産農産物の利用拡大の取組として、立命館大学においてコラボメニューの考案などをさせていただいております。現在はアオバナを活用した寒天などのメニュー開発を進めていただいております。

利用拡大を図るためにはどういった方法がいいのかということ立命館大学も含めた関係機関と連携して協議を行い、草津市産農産物の認知度向上と消費拡大を図っていききたいと考えています。

輸送コストの観点からも、草津市産のものはできるだけ草津市内で消費されることが望ましいので、そういったことを市民の方に知っていただくということから少しでも進めていききたいと考えています。

#### ●委員

この計画を作っている時にはまだ環境に配慮した農業という概念があまり無か

ったと思うが、国のみどりの食料システム戦略などでそういった取組を進めていくという流れになっており、計画に変更を加えて有機農業などを進捗管理の中に入れていくといったことはしなくてもよいか。

#### ◇事務局

計画の中間年度である令和8年度に計画の中間見直しを行う予定であり、その段階で計画策定時からの情勢の変化などを整理する予定をしており、その際には審議会にお諮りして御意見を頂戴し、計画の見直しを行ってまいりたいと考えております。

#### ●委員

量販店としても地産地消が今後5年、10年で非常に重要になるという認識を持っている。その理由として物流の問題がある。

遠方から運搬する経費や方法、また、遠方の作地が適地適作でなくなっているという点などの問題がある。

そうなる量販店としては近場の産地からいかに調達できるかによって、数量や鮮度の確保、物流コストや輸送に伴う二酸化炭素の削減などに関わってくるので、地産地消という部分をもっと大事にして地元の方々とコミュニケーションを図りながら地場産物の生産拡大をお願いしていくというスタンスである。

そうした取組を進めるにあたっての課題として、地場産の野菜などを量販店が自由に仕入れられるルートが無い。量販店が常時売り場に並べられるような地産地消の仕組み作りを計画の中に入れていただけると非常にありがたいと思う。

生産者側からしても、特定の販売先がある農産物は販売単価が高く、特定の販売先が無く市場に行ってしまう農産物はどうしても買い叩かれて単価が下がってしまう傾向にあるので、生産者から販売先、最終消費者までをトータルコーディネートするという意識で物事を考えていただけると非常にありがたいと思う。

また、他の産地と同じ時期に同じ農産物を作ってしまうと供給過剰になってしまうので、適地適作になっていない農産物や、物流の問題で他から持って来られない農産物を作るといったことも考えていただけるとよいかと思う。滋賀県は春と秋に野菜を作られる方が多いが、他の産地では夏または冬に1期だけしか作らないところも多いので、そういった地域の特性を活かして非常に重要性の高い野菜を作るチャンスもあると思うので、ぜひ検討の材料の一つにいただければと思う。

#### ◇事務局

草津市は地理的に大阪、名古屋、北陸にも近いことから物流の問題については、比較的優位にある地域と考えておりますし、そういったことも活かしながら農業者

や販売店、その他の関係者とも連携協議を進めていながら効果的な地産地消の取組に繋げていきたいと思っておりますので、今後、調査研究等をしていく中で実施できることがあれば、御協力をいただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

## **6. 閉会**

---